

「スポーツ・健康まちづくり」 優良自治体表彰2024

スポーツ庁参事官（地域振興担当）

スポーツとコンディショニングを通じた健康なまちづくり

スポまち！表彰2024

①北海道東川町

＜目標＞ 計画期間：～令和10年3月31日

- ① コンディショニングとスポーツを通じて住民のライフパフォーマンスの向上（公共施設の高稼働、住民参加率の向上）
- ② 住民同士のコミュニティの創出（住民満足度の向上）
- ③ 日本一健康なまちづくりを目指して町の魅力を向上（関係人口の増加）

コンディショニングのイベント：2023年 年間のべ5,000名→2028年 年間のべ8,000名
公共スポーツ施設（ジム）の利用者 2023年 月平均のべ800名→2028年 月平均のべ1,000名（年間12,000名）

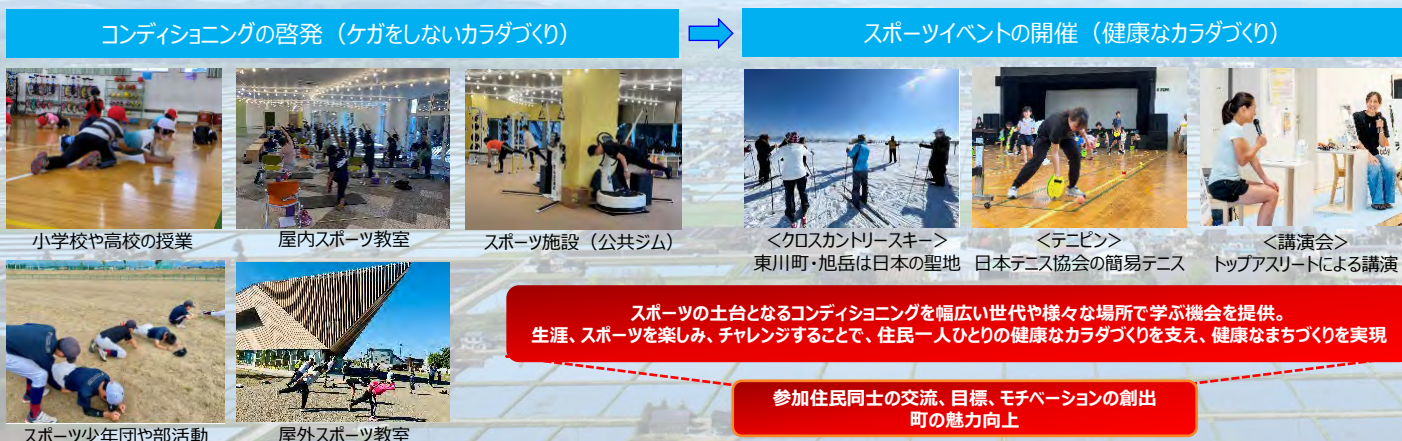
＜PRポイント＞

- ① 町独自の制度オフィシャルパートナーのR-bodyとの**官民連携による住民の健康づくり**
- ② 小学校や高校の授業へのコンディショニング・スポーツの導入（**育成年代からのカラダづくり教育**）
- ③ 地域に根付く競技からR-bodyのネットワークにより**住民がスポーツを楽しむ機会を展開**

＜現状・課題＞

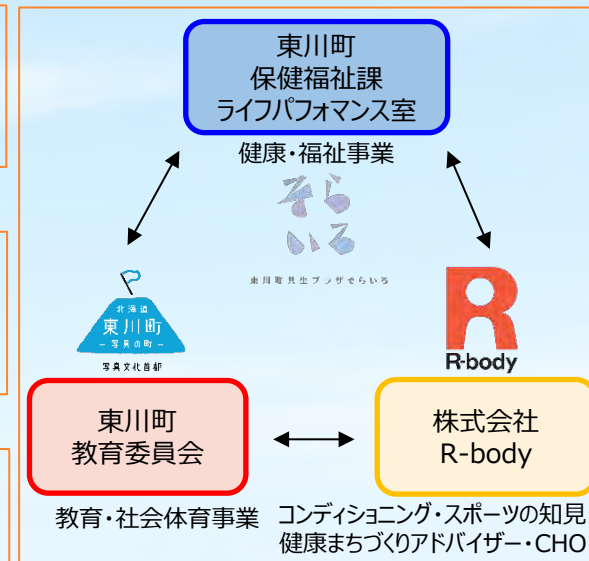
- ・ 本町は移住者が多く、居住年数25年未満の町民が半数を占める一方で、高齢化率が増加傾向にある。
- ・ 冬期間は積雪などで移動が困難になり、自宅に閉じこもりがちになるため、冬季の運動不足が課題となっている。
- ・ 高齢者の社会参加や健康促進プログラムが不足しており、孤立や認知症予防のために住民の自発的な行動が必要である。

＜総合的な取組内容＞



【フォローアップ欄】令和7年度以降における計画の進捗状況

＜継続的な取組を確保できる体制（図）＞



＜セルフチェックシート＞



問合せ先・電話番号

部署名：東川町保健福祉課ライフパフォーマンス室
電話：0166-82-2111

3歳から取り組む運動習慣づくりプロジェクト ～ONAGAWAモデル～

スバまち！表彰2024
②宮城県女川町

＜目標＞ 計画期間：～令和10年3月31日

幼少期からスポーツに触れる機会をつくり、**運動習慣の定着化、体力向上**を図る

①体力向上…体力テストの結果（全国平均以上） ②運動習慣の定着化…運動実施率（70%以上）

＜PRポイント＞

非認知能力UP…「できた・できない」の結果だけを評価するのではなく、前の自分と比べてできるようになったことを「ほめる」。さらにプログラム中の動画を保護者に限定公開で配信することで、家庭でも「ほめる」機会が増え、自己肯定感の向上につながる。⇒運動が好きになる。

運動習慣⇒生活習慣の改善…年間を通じた活動で運動習慣を身に着けることで生活習慣を改善！

プログラムの様子を配信

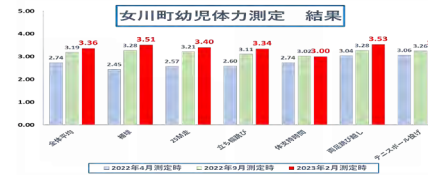


＜現状・課題＞

・生活様式の変化（コロナ禍など）で外で遊ぶ機会が減少し、子どもたちの体力が低下し、肥満傾向も増加している。

⇒保育所では年間を通じた運動教室を開催し、**子どもたちの体力はUP！！**

・より効果的な取組とするためには、**保育所～小学校まで継続したプログラムが必要**



＜総合的な取組内容＞

【保育所～小学校まで継続して運動機会を提供】

それぞれの事業主体が連携し、プログラムを作成。
年間を通して様々なスポーツや体を動かす遊びを体験できる。



承認の声掛けを徹底

⇒**非認知能力UP**

過去の自分と比較してどうなのかを伝える。結果だけでなくプロセスを褒める。

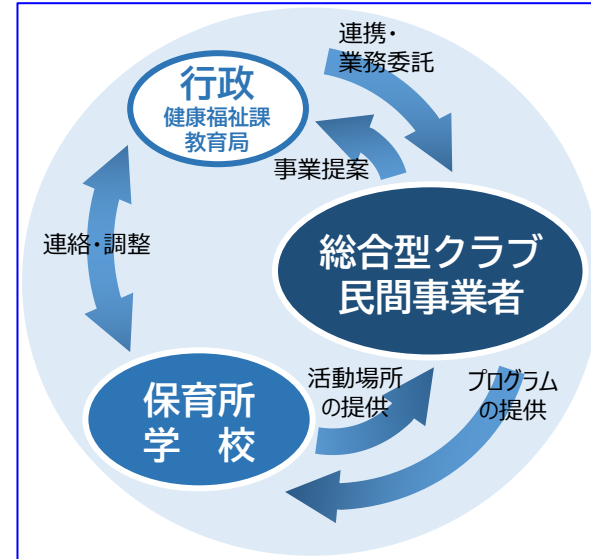
「練習頑張ってるから、遠くに投げられるようになったね！」
「惜しかったね！けど今のチャレンジすごかったよ！」



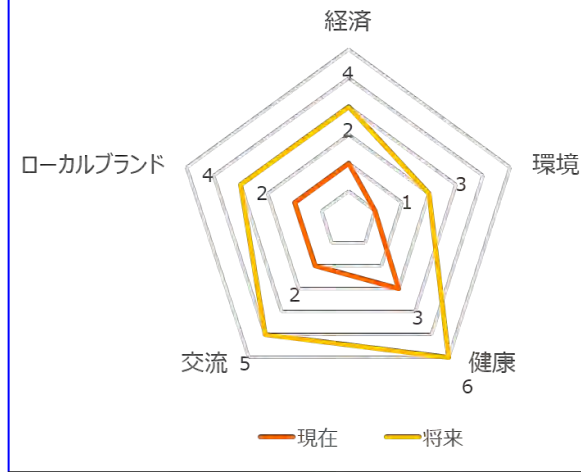
運動が好きになり、自分から体を動かす機会が増加

**運動習慣定着
+
体力向上
+
生活習慣改善**

＜継続的な取組を確保できる体制（図）＞



＜セルフチェックシート＞



【フォローアップ欄】令和7年度以降における計画の進捗状況

問合せ先・電話番号

女川町教育委員会教育局体育振興係
TEL 0225-54-3133

“心と体がうるおうまち”づくり クアオルトかみのやま



「上山型温泉クアオルト」の取組はコチラ →



スポまち！表彰2024
③山形県上市市

＜目標＞ 計画期間：～令和10年3月31日

①**健康**：自然と健康づくりに取り組める環境を活かした市民と企業社員の健康づくり！

KPI①：クアオルト健康ウォーキング **目標：360日**、②：スマート・ライフ・ステイツアーによる健康に資する行動変容率 **目標：90%**

②**交流**：自然、温泉、食に恵まれた上山の地域資源を活かした関係・交流人口の拡大！

KPI：企業の健康経営等による利用者・売上 **目標：800人・8,000千円**

③**環境**：里山を中心としたウォーキングコースなどの積極活用による上山らしい田園風景の保全、育成！

KPI：「ウォーキングコースの環境整備に係る企業・団体等の協力数 **目標：7社**



＜PRポイント＞

※ 目標達成年度はいずれも令和9年度末

【その1】ドイツミュンヘン大学教授鑑定で**国内唯一**となる「クアオルト健康ウォーキング認定コース」整備！

【その2】林野庁「森林サービス産業（企業等の健康経営支援）」のモデル地域に**東北唯一**選定！（令和2年度当時）

【その3】**東北の自治体初**、上市市役所「健康経営優良法人（大規模法人部門）」を継続取得！



＜現状・課題＞

・生活習慣病等による死亡、**高血糖・高血圧者**の占める割合が**県平均より高い**

→市民の**健康意識の更なる向上による生活習慣の改善**が必要！

・従来型観光における**宿泊者の減少**、観光業の停滞

→市内の**豊かな地域資源を活用**し、域内消費の拡大だけでなく、**訪問者の心身の健康づくり**にもつながる**観光地域**へ！

＜総合的な取組内容＞

豊かな地域資源

森林空間



豊富な農産物・食

かみのやま温泉



上山型温泉クアオルトの取組

健康

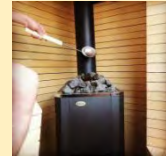
企業社員の健康
（企業の健康経営推進に向けた企業向けプログラム）



森林ウォーキング



地元産材の料理とサウナで心もカラダもとのう！



市民の健康



交流

環境

毎日ウォーキング

交流・関係人口の拡大による**地域活性化** 上山らしい**田園風景の保全**

“心と体がうるおうまち”のイメージ

交流

まちの健康

健康

人の健康

環境

環境の健康

＜セルフチェックシート＞



問合せ先・電話番号

上市市市政戦略課クアオルト推進係
TEL 023-672-1111

【フォローアップ欄】令和7年度以降における計画の進捗状況

「アーバンスポーツのまち かさま」の新たな挑戦～KASAMA Breakin' Project～

スポまち！表彰2024

④茨城県笠間市

＜目標＞ 計画期間：～令和10年3月31日

- (1) 当市でブレイキンの全国大会開催
日本ダンススポーツ連盟主催の「全日本ブレイキン選手権大会」の当市開催
- (2) 当市出身者の全国大会出場者輩出
当市から全国で活躍するB-BOY、B-GIRLを輩出する仕組みの構築



＜PRポイント＞

「ブレイキンの新たな聖地」として、ブレイキンを身近に感じてもらえる場を提供

- (1) 当市独自のブレイキン大会を継続開催！
- (2) 市内小学校でブレイキンの出前授業を実施！
- (3) 市内イベント等でブレイキンの啓発活動実施！



＜現状・課題＞

当市では、若者世代の交流人口増加などを目的に、スケートボードやBMX等のアーバンスポーツの推進を図るべく、国内最大級のスケートパークを令和3年4月に開業。これまでフランス代表が東京2020大会の事前合宿に使用したほか、全国大会を3度実施してきた。しかし、**全国的にスケートパークを整備する自治体が増加**しており、新たなアーバンスポーツの拠点となるような取組みを実施することで、**他自治体と差別化を図る必要性**がある。

＜総合的な取組内容＞

STEP1 当市独自のブレイキン大会「舞闘炎」を毎年開催！

STEP2 大会の規模拡大、若者世代の交流促進！



舞闘炎の様子



舞闘炎 vol.02
の動画はこちら
地元新聞社
で紹介されました！

STEP1 出前授業やイベントでの啓発活動を継続して実施！

STEP2 子ども達がダンススクールで習うことのできる環境の整備！

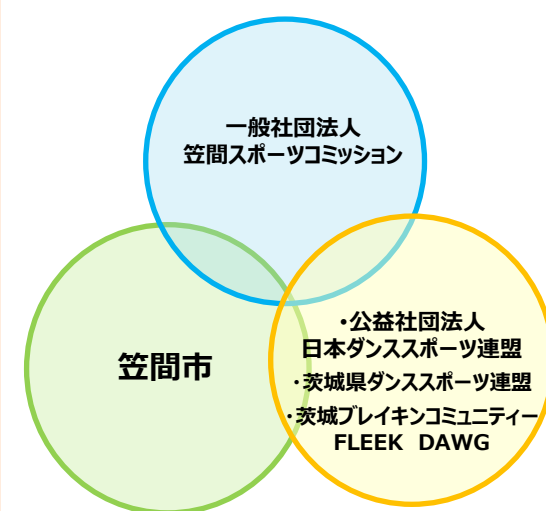


市内小学校での出前授業の様子

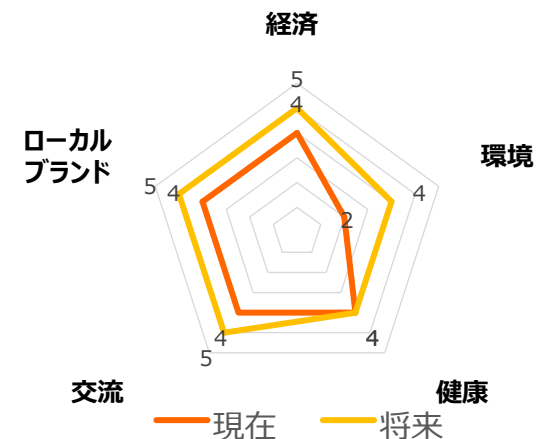


「ブレイキンの新たな聖地」

＜継続的な取組を確保できる体制（図）＞



＜セルフチェックシート＞



問合せ先・電話番号

茨城県 笠間市 教育委員会 教育部 生涯学習課
スポーツ振興室TEL:0296-77-1101

【フォローアップ欄】令和7年度以降における計画の進捗状況

〈目標〉 計画期間：～令和12年3月31日

- ①スポーツの裾野拡大（スポーツ教室やイベントを通して**競技の普及促進**とともに**スポーツ人口の裾野拡大**を図る）
 【週1回以上のスポーツ実施率（KPI）】 R5：45.6% → R7：50.0% → R12：60.0%
 【スポーツ少年団の総加入団員数（KPI）】 R5：1,586人 → R7：1,600人 → R12：1,800人
- ②スポーツによる賑わいの創出（**スポーツチームを応援する機運を醸成**し、賑わいを創出することで**市全体を盛り上げる**）
 【1年間のスポーツ観戦者数（KPI）】 R5：11,477人 → R7：18,000人 → R12：30,000人
 【スポーツ振興に関する市民満足度（KPI）】 R5：3.14点 → R7：3.24点 → R12：3.50点

〈PRポイント〉

◎プロ・実業団スポーツチームとの連携

市内等にある5つの**スポーツチームと連携協定を締結**し、スポーツ教室やイベントなどの**連携事業を開催**することで市民と選手の交流機会を創出するとともに、チームの発信力を生かした**市のPR活動**への協力をいただいている。

◎豊富なスポーツ資源

大規模スポーツ施設や歴史ある「**勝田全国マラソン**」、「**三浜駅伝競走大会**」など地域に根付いたスポーツイベントを開催している。

◎まちづくりを支えるスポーツ関係団体

スポーツ協会や**スポーツ少年団**、各中学校区の**地域体育部会**と**スポーツ推進委員**など、地域のスポーツ推進の一翼を担う組織があり、**スポーツによるまちづくりの土壌**となっている。

〈現状・課題〉

本市は、スポーツ協会やスポーツ少年団の会員数の減少や、「勝田全国マラソン」等を支える市民ボランティアの高齢化など、**スポーツ全体の裾野が縮小**していることが課題となっている。これらの課題を解決するためにも、多くの人にスポーツに興味・関心を持ってもらう必要があることから、本市の地域的特殊性、優位性である**プロ・実業団チームとの連携事業**及び本市が所有する**豊富なスポーツ資源をさらに活用**し、一層のスポーツによるまちづくりを推進していくことが求められている。

〈総合的な取組内容〉 ■ インナー施策

■ アウター施策

スポーツ教室関係事業の実施



選手やコーチから直接指導を受けることで、子どもたちのスポーツに取り組む意識の向上及び市内競技レベルの向上につながる。

ホームゲームの開催と盛り上げ施策



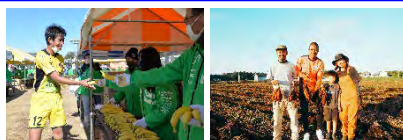
市民無料招待を実施し、観戦者数の増加を図るとともに、勝田駅前にチームの試合広告を大きく展開し、市全体でホームゲームを盛り上げる機運を醸成する。当日は市のPRブースを設置し、特産品や観光パンフレットの配布を実施する。

サイン会・講演会の実施



選手と触れ合える機会を創出することで、チームの認知度向上及びホームゲーム観戦者の増加につながる。

チームの発信力を生かした市のPR活動



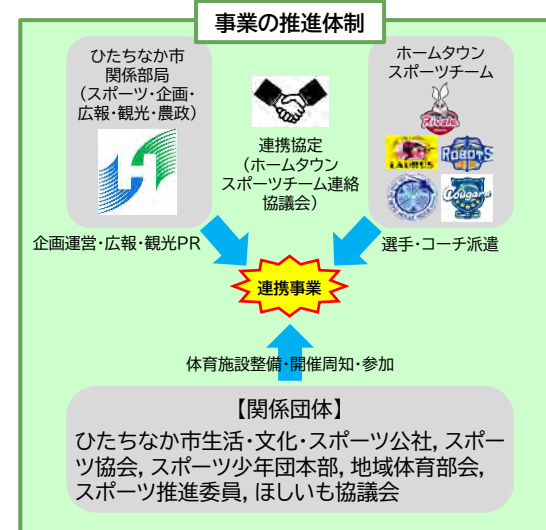
チームが市の事業へボランティア協力することによる相互PR。市は協力活動をSNSで拡散。

【今後の取組】
ホームタウンスポーツチーム
連絡協議会の設立

市とチーム及びチーム同士の情報交換の場を設け、既に実施している左記の取組をさらに盛り上げるとともに、新たな連携事業の立ち上げを検討していく。また、これまでになかったチーム同士の交流も活発化させる。

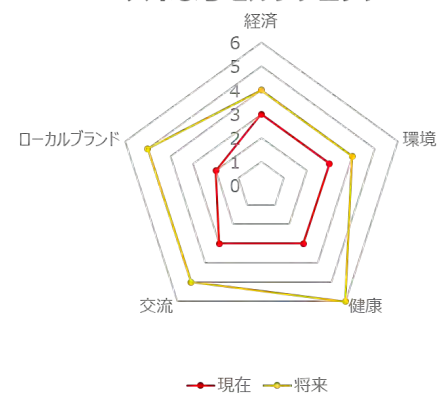


〈継続的な取組を確保できる体制（図）〉



〈セルフチェックシート〉

スポまちセルフチェック



問合せ先・電話番号

茨城県ひたちなか市市民生活部スポーツ振興課
029-273-0111（内線2111）

【フォローアップ欄】令和7年度以降における計画の進捗状況



プロフトゴルフクラブと連携したスポーツ推進プロジェクト

スポまち！表彰2024
⑥茨城県鹿嶋市

＜目標＞ 計画期間：令和6年10月～令和8年3月まで

フットゴルフの認知度向上と競技人口の増加、老若男女誰もが楽しめるスポーツで新たなコミュニティの形成と才能発掘！
市内在住サッカー実践者を中心にフットゴルフ人口増加を目指し、鹿嶋から日本代表選手を輩出する！

【具体的目標】

○鹿嶋市フットゴルフ大会の開催 ○市主催サッカー大会等での体験会 ○市内幼児教育施設等への訪問事業

★フットゴルフ体験者数 3,000人（令和8年3月末） **体験者の増加による認知の拡大！**

★SNS登録者数 1,000人（令和8年3月末） **PR方法の拡充！**

＜PRポイント＞

○施設の充実 日本全国でも珍しいフットゴルフ専用の本格コース（茨城県内は3か所のみ）が身近にある

○プロチーム 日本初のプロフトゴルフクラブ**鹿島Ascendia（アセンディア）**が市内を中心に活動しており、
身近に日本代表のプロ選手と触れ合う機会や練習できる環境を提供することができる

○ふるさと納税 返礼品としてフットゴルフの体験や指導が受けられる（既に全国からの多数の申し込みあり！）

＜現状・課題＞

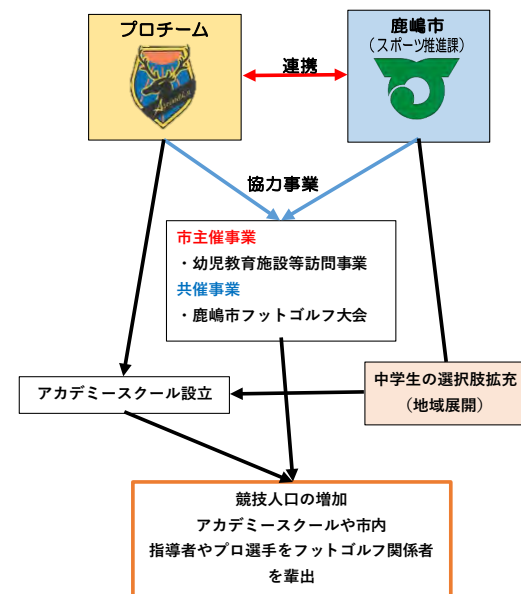
（現状）人口減少や少子高齢化の影響により、スポーツを楽しむ人が減っている。

（課題）スポーツを通じた市民同士の交流や繋がり減少。

⇒弱体化しつつある地域コミュニティを**スポーツの力で活性化**



＜継続的な取組を確保できる体制（図）＞



＜総合的な取組内容＞

中学生の選択肢拡充

- ・運動部活動の地域移行による受け皿のひとつとして**鹿島Ascendia（アセンディア）**と連携
- ・アカデミースクールを設立することで、競技性をもった高いレベルで学べる環境づくり



体験事業の実施

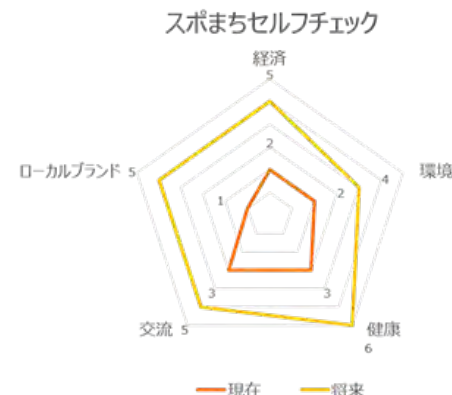
- ・鹿嶋市フットゴルフ大会の開催
- ・市主催事業（みんなのスポーツフェスタや鹿嶋まつり）への積極的な関わり（体験ブースの出展）
- ・市主催大会（7人制サッカー大会・フットサル大会など）で体験会の実施

幼少時代の体験

- ・市内幼児教育施設へ訪問しスポーツの楽しさを通じてフットゴルフ競技に興味をもってもら（令和6年度より実施）
- ・幼児教育施設のほかに小学校や中学校など市内学校へ訪問し、体験会を実施（予定）

⇒これらの取り組みを通して、「フットゴルフ」を核とした新たなコミュニティの形成を目指します！！

＜セルフチェックシート＞



【フォローアップ欄】令和7年度以降における計画の進捗状況

問合せ先・電話番号

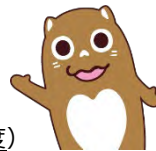
鹿嶋市教育委員会事務局スポーツ推進課
0299-82-2911（内561）

<目標>

計画期間：～令和10年3月31日

「ホッケー」を軸に移住定住促進・交流人口拡大・健康増進等“地方創生”を実現！

- ①【移住定住の促進】社会増減数：158人増（令和5年度）→ **740人増**（累積・令和6年度～令和9年度）
- ②【交流人口の拡大】交流人口：約80万人（令和5年度）→ **約370万人**（累積・令和6年度～令和9年度）
- ③【健康増進】ホッケー場 延べ利用団体数：212団体（令和5年度）→ **940団体**（累計・令和6年度～令和9年度）



<PRポイント>

- ① オリンピック基準の“本物”のホッケー場で、オリンピックや日本代表等“一線級”の地域おこし協力隊による指導を実現！
地域に根付いていなかったホッケー競技について、0（ゼロ）から施設整備を行い国内外の代表合宿やオリンピック事前キャンプ誘致、またオリンピック等の人材獲得に成功。競技の普及活動にも取り組み、日本ホッケー協会より「公式ホッケータウン」に認定。
- ② 豊富な子育て支援でスポーツ移住をサポート！
スポーツ施策のほか、先進的な英語教育やPFIを活用した子育て世帯向けの住宅の整備等、様々な移住定住施策を展開。



▲パリ2024大会に出場したホッケー女子日本代表の永井隊員

<現状・課題>

- これまで、各種スポーツ施設等のハード整備や、地域おこし協力隊を活用した競技人口の拡大等のインナー政策、また移住定住に向けた各子育て支援等のアウトター政策などを実施してきた結果、減り続けていた町の人口が「下げ止まり」の状況に改善。
- 今後、持続可能なまちにしていくためには「下げ止まり」の状況から「現状維持」の状況へ、さらには「人口増」への転換が必要。
- 今後、Well-beingの実現と人口増の状況へ転換していくために、「ホッケー」を軸として、一線級の地域おこし協力隊を活用しながら持続可能なスポーツを核としたまちづくりを進め、「健康増進」や「スポーツ移住」の促進等を図っていく必要がある。



▲ホッケー無料体験教室の開催

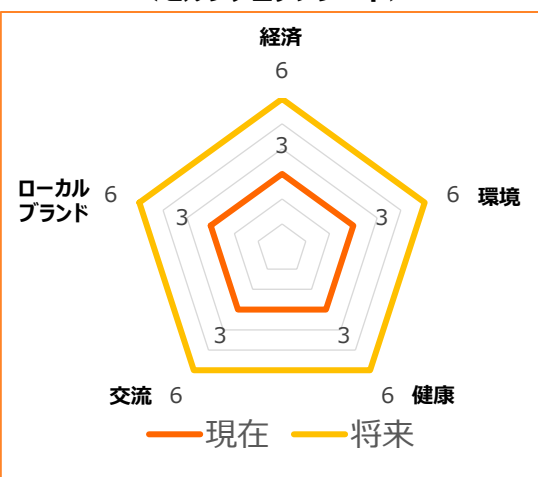
<総合的な取組内容>



<継続的な取組を確保できる体制（図）>



<セルフチェックシート>



【フォローアップ欄】令和7年度以降における計画の進捗状況

問合せ先・電話番号

同じチームに所属することで健常者と障がい者の交流を！久喜市版ユニファイドスポーツ推進プロジェクト

スポまち！表彰2024
⑧埼玉県久喜市

＜目標＞ 計画期間：～令和9年3月31日

健常者及び障がい者のスポーツ実施率の増(53.4%→65%、30.4%→40%)
健常者と障がい者の交流拡大(イベント参加者数 500人)

＜PRポイント＞

■知的障がい者と健常者が「一緒に」スポーツを楽しめるユニファイドスポーツの推進により、お互いがお互いを理解しあう共生社会の実現に繋がります。

＜現状・課題＞

健常者/障がい者のスポーツ実施率の目標未達が課題。スポーツへの意欲を高めるため、あらゆる方が参加できるユニバーサルスポーツの普及が必要だが、そのきっかけとして、障がい者(知的)と健常者が同じチームで参加するユニファイドスポーツの推進による参加者同士のコミュニケーション及び相互理解が重要と考える。

＜総合的な取組内容＞

【目的】

ユニファイドスポーツ「フロアボール」「バスケットボール」を通じた健常者と知的障がい者の交流を促進し、スポーツ実施率の向上及び共生社会の実現を図る。

【資源】

・3人制バスケットボール全国大会で日本一を2度果たした久喜高校。

【内容】

取組み①「商業施設での体験会を開催」

スポーツコミッションを核に各ステークホルダーと連携し、体験会を開催

取組み②「学校での体験授業や連携プログラムを開催」

アスリートとの体験授業など、競技に触れてもらう機会を増やす⇒関心惹起へ

取組み③「競技会の開催」

体験会や体験授業の発展段階として、披露の場である競技会を開催する

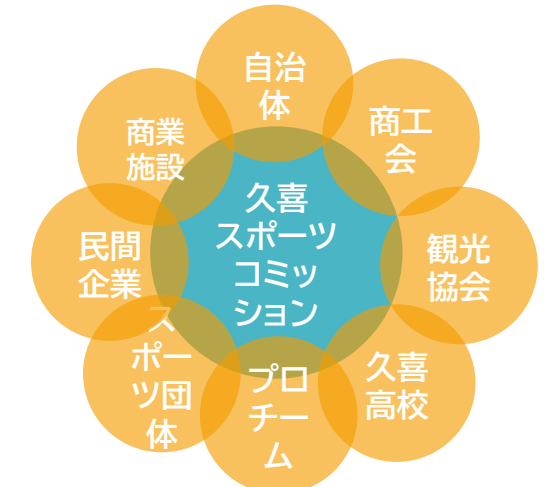
【工夫点】

①「スペシャルオリンピックス日本・埼玉」「フロアボール連盟」と連携

②市内在住のパラアスリートに監修していただきプロモーションにつなげる

ユニファイドスポーツを通じて
健常者と知的障がい者の共生社会の実現へ

＜継続的な取組を確保できる体制（図）＞



※市外団体：スペシャルオリンピックス日本・埼玉やフロアボール連盟

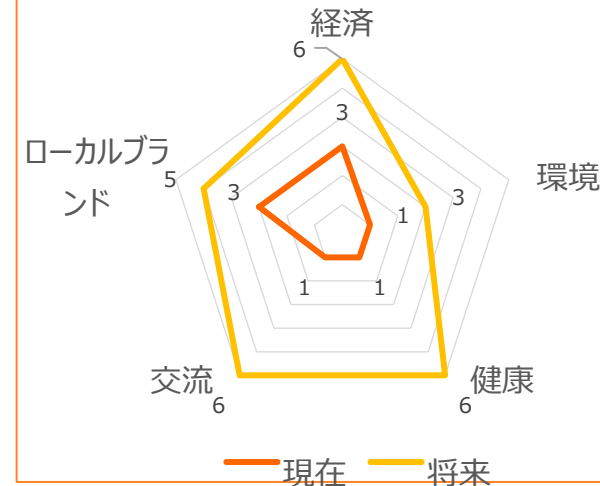


フロアボール大会の様様



様々なイベントでボランティアも
つとめてくれる久喜高校バスケ部

＜セルフチェックシート＞



問合せ先・電話番号

久喜市スポーツ振興課 0480(22)1111

【フォローアップ欄】令和7年度以降における計画の進捗状況



「スポーツと健幸」ひと、まち、産業のウェルビーイング プロジェクト



スポまち！表彰2024
⑨静岡県三島市

＜目標＞ 計画期間：～令和8年3月31日

行政、企業、団体、市民が一体となり「**スポーツ健幸都市みしま**」を目指す！

- ① プロスポーツチームや企業等と連携したスポーツイベントの開催 **R5年度 15回 → R7年度 30回**
- ② 関係人口・交流人口を生むイベントの開催 三島ファンを増やす！ 観光交流客数 **R5年度 631万人 → R8年度 810万人**
- ③ 誰もがスポーツに親しみ運動好きな人を育むスポーツイベントなどの開催 **R5年度 20回 → R7年度 40回**

＜PRポイント＞

- 「**スポーツ健幸都市**」を宣言 都市宣言の「**5つの視点**」から、「**スポーツ**」による健幸まちづくりを更に推進し、スポーツを核としたまちづくり、人もまちも産業までもが、豊かで潤い、幸せを実感できるまちづくりを進めていく
- **プロスポーツチーム 6団体との連携**により、関係人口、交流人口、観光交流客数の増加を目指す
- 市民主体のまちづくりを一步進め、**行政・市民・団体・企業などが互いに連携する共創の取組**を進めていく



＜現状・課題＞

人口減少、少子高齢化が進む中、関係人口や交流人口、観光交流客数を増やし、経済活動の活性化、街や人に更なる活力をもたらすことが必要と捉えている。三島市の立地条件、自然や歴史的資源とスポーツの持つ力を掛け合わせ、企業や団体、市民など、関わるすべてのひとのウェルビーイング、スポーツで健幸になることが求められる。

＜総合的な取組内容＞

「**スポーツ健幸都市 みしま**」三島市に関わる すべての人をウェルビーイングに導く！

民間企業との連携



←大型ウォーキングイベント、プロギングイベントの開催



連携企業

・株式会社アルビーズ ・サイクルスポーツセンター
・タイードリンク株式会社 ・大塚製薬株式会社
・森永製菓株式会社 ・株式会社東海コクホ 他

プロスポーツチームとの連携



東レアローズ静岡 エキシビジョンマッチ開催
プロスポーツをどこよりも身近で観戦！
スポーツによる交流人口の拡大

連携プロスポーツチーム

・東レアローズ静岡 ・ベルテックス静岡
・清水エスパルス ・プリジストンサイクリング
・メリダジャパン ・アスルクラロスルガ 他

スポーツ関係団体との連携

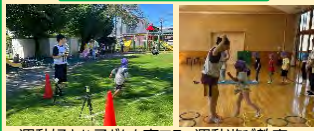


←誰もがスポーツに親しむ機会の創出、スポーツを通じ、楽しく豊かな暮らしを次世代へ

連携団体

スポーツ協会、スポーツ推進委員会、体育振興会、レクリエーション協会、スポーツ少年団

大学との連携

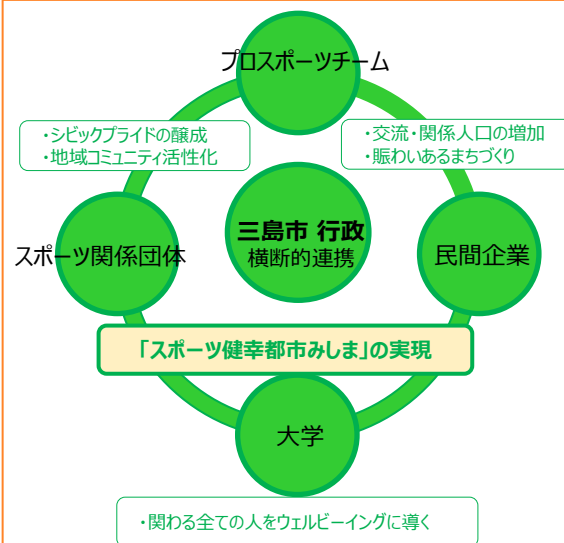


運動好きな子どもを育てる 運動遊び教室
順天堂大学スポーツ健康科学部との共創

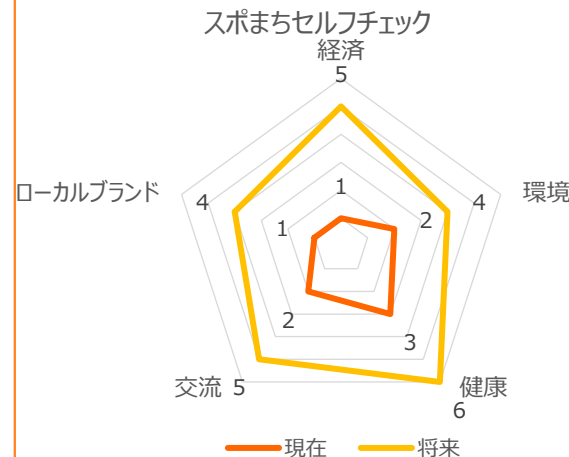


◇ウェルビーイングの実現
◇シビックプライドの醸成、コミュニティの活性化！
◇交流人口、関係人口 観光交流客数の増加
「三島ファン」を増やし、地域の賑わい創出！
「スポーツによるひと、まち、産業のウェルビーイングの実現」

＜継続的な取組を確保できる体制（図）＞



＜セルフチェックシート＞



【フォローアップ欄】令和7年度以降における計画の進捗状況

問合せ先・電話番号

静岡県三島市 こども・健幸まちづくり部 スポーツ推進課
TEL：055-987-7571

「モルックの聖地」御殿場で！あつまり、つながり、笑顔を育む！



スポまち！表彰2024
⑩静岡県御殿場市

＜目標＞ 計画期間：～令和9年8月31日

- 市民ひとり1スポーツの実現！モルックでスポーツに誰もがアクセスできる！～モルックによる市民の運動機会の創出～
 - 世界中から「モルックをしに来たい！」と思えるまちへ🌟～スポーツツーリズムによる文化・経済活性化～
 - モルックを通じて地域・世代間を超えた交流の実現👥～域内外の人との交流を育み、豊かな生活を創出～
- 【市内モルック人口：200人（R7.3）▶800人（R8.3）▶2,000人！（R9.3）】

＜PRポイント＞

- 市内スポーツ団体・地元モルックチームが一丸となりモルック普及に積極的に取り組んでいる。
- 2024モルック世界大会4位の和田選手を輩出。子ども向けのモルック教室の実施経験有。
- 世界最大規模の大会が複数回開催され、多くの市民が大会に携わった。



＜現状・課題＞

- ・普段スポーツに親しみのない市民が気軽にアクセスできるスポーツが求められている。
- ・競技者層と初心者層の競技力の差が顕著なスポーツが多く、スポーツを通じた新たな人と人との交流が生まれにくい。
- ・世界最大規模の大会に携わった「JMA公認団体 NAKA-Möl Gotemba」と市民の交流が少なく、資源を活かしきれていない。

＜総合的な取組内容＞

- 取組1** 地元団体等による市民向け大会・体験会の開催
(モルックを知る機会、モルックを通じた交流機会の創出)
- 取組2** 世界で活躍するトップアスリートによるモルック教室
(子どもたちの憧れや目標の創出、競技力向上)
- 取組3** 小～大規模大会誘致及びモルッカー来訪施策の推進
(全国のモルックチームがまた来たいと思えるまちへ)



上記1～3を令和6年12月～実施＆継続し、「モルックの聖地」ブランドをブラッシュアップ🌟

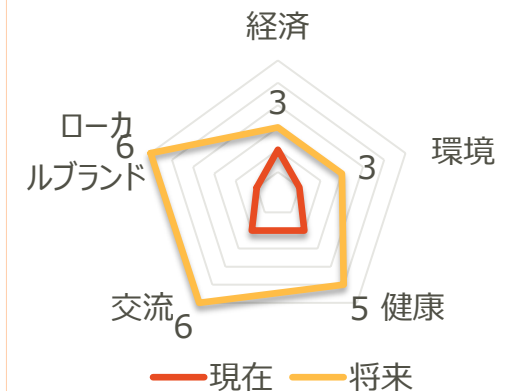
2027モルック世界大会を御殿場市に誘致！！「生きがい」「新たな交流（域内外）」「シビックプライド」を創出

▶▶▶モルックの聖地へ、モルックを通じたスポーツ交流人口拡大

＜継続的な取組を確保できる体制（図）＞



＜セルフチェックシート＞



問合せ先・電話番号

御殿場市 産業スポーツ部 スポーツ交流課
TEL:0550-82-7830

【フォローアップ欄】令和7年度以降における計画の進捗状況

国スポ開催を契機とした「スポーツのまちNAGAHAMA」プロジェクト



スポまち！表彰2024
⑪滋賀県長浜市

＜目標＞ 計画期間：～令和11年3月31日

- 官民一体となり地域資源や自然環境を活かした「スポーツ大会」や「スポーツ合宿」の誘致。
- 競技団体等と連携し、開催競技を中心とした競技普及や競技団体の組織強化。
- スポーツを「する」「みる」「支える」「関わる」市民の増加や興味関心を高める。



【数値目標】◆スポーツ合宿の受け入れチーム数〔R5〕3チーム→〔R10〕15チーム

＜PRポイント＞

国スポ・障スポ開催の効果・魅力を最大限に活かし、「スポーツのまちNAGAHAMA」を確立する。

○日本一の琵琶湖や雄大な自然環境、地域資源を活かした「スポーツ大会」「スポーツ合宿inながはま」の推進。

○競技団体と連携し、**園・学校への訪問による競技体験を実施**し、安全で楽しいスポーツの魅力を伝える。



＜現状・課題＞

・2025年（令和7年）「わたSHIGA輝く国スポ・障スポ」の開催を契機として、競技普及や地域団体の組織強化、スポーツ振興に取り組み、両大会の有形・無形のレガシーを確実に継承する必要がある。

・日本一の琵琶湖や自然環境、地域資源を活かした取り組み、長浜市の魅力を向上し、広く発信したい。



＜総合的な取組内容＞

【アウトター事業】



スポーツ合宿の誘致
(市内スポーツ施設活用)



スポーツ大会・国スポ記念大会の開催
(国スポ大会レガシー)

【インナー事業】



競技体験活動
(園・学校への訪問)



スポーツ教室の開催
(アスリートとの交流事業)

【今後の展開】

- スポーツ大会・合宿が長浜市で日常的に開催
- 競技団体等との連携強化・実行体制の構築
- スポーツと長浜市の魅力を最大限に発信

継続・推進



スポーツのまちNAGAHAMAの確立へ！

- 地域資源の活用・地域活性化！**
- スポーツに取り組みやすい環境・子どもの体力向上！**
- スポーツを「する」「みる」「支える」「関わる」市民の増加！**

＜継続的な取組を確保できる体制（図）＞

スポーツ団体

競技団体/スポーツ
少年団/スポーツ協
会 など

関係団体

観光協会/商工会/
企業/PTA など

**スポーツのまち
NAGAHAMA**

行政・教育施設

長浜市/長浜文化
スポーツ振興事業団/
園・学校 など

地域

自治会/地域づくり
協議会/協力者
など

～行政のサポート・関係団体等の連携～

＜セルフチェックシート＞



【フォローアップ欄】令和7年度以降における計画の進捗状況

問合せ先・電話番号

【問い合わせ先】長浜市市民協働部
国スポ・障スポ大会推進室 0749-65-6303

<目標> 計画期間：～令和9 年3月31日

1. 地域スポーツの振興

スポーツ団体の育成・連携強化と指導者育成による、住民主体のスポーツ環境の整備と健康増進の促進

2. 合宿等の誘致や大会の実施

施設を活用し、合宿やマラソン、サイクルツーリズムを推進し、観光客誘致と地域経済の活性化を図る

3. スポーツ施設の充実とデジタル技術の活用

民間事業者等と連携した、AIカメラやコミュニティPF等によるライブ配信・デジタル技術活用で、施設利用促進とスマートシティ化を推進

花咲く明日につながる
口熊野 かみとんだ

上富田町
KAMITONDA TOWN



<PRポイント>

- ✓ 日本有数のスポーツ合宿施設「上富田スポーツセンター」では国内外のプロ/アマチュアチームを対象に合宿、大会、イベントを誘致
- ✓ 最新のトレーニングジム「上富田スポーツサロン」は、合宿利用者だけでなく地元住民のアスリートから高齢者の方まで幅広い層が利用
- ✓ 民間事業者等と連携し、スポーツDXソリューションプロジェクトを進め、AIカメラ無人ライブ配信、コミュニティPFによる活性化を展開



<現状・課題>

- ・上富田町は、2015年まで約60年間つづいて人口が増加、近年は生産年齢人口(15～64歳)の減少傾向のため地域活力の向上が課題
- ・今後、関係人口の拡大やスポーツ観光の振興が必要であり、上富田町総合計画に基づき「一年を通じて温暖な気候」を活かしたスポーツによるまちづくりをめざして地域活性化に取り組む必要がある。直近では、民間事業者等と連携したスポーツDXソリューション導入プロジェクトを推進。

<総合的な取組内容>

上富田の合宿サポート

専属スタッフが合宿・大会をサポート！



スポーツイベント開催

合宿や大会利用だけでなく
幅広いスポーツイベントを開催！



スポーツDXを推進

最新AIカメラ&コミュニティPFで
試合ライブ配信や地域情報を発信



<継続的な取組を確保できる体制(図)>

合宿・施設利用・スポーツ関係者等

誘致・PR

利用・来訪

振興課企画・商工観光班

(スポーツ文化振興、スポーツツーリズム推進、
情報発信、関係機関との連携・調整など)

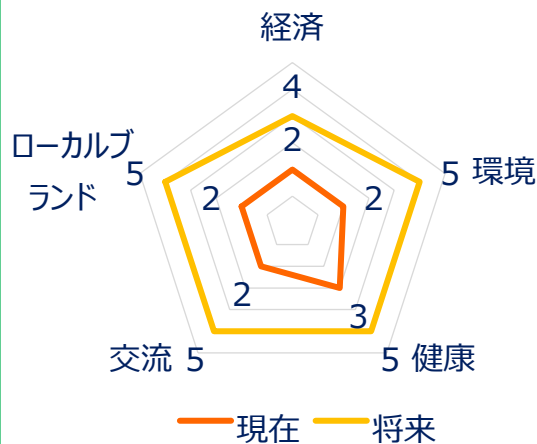
スポーツのまち上富田

・南紀エリアスポーツ
合宿誘致推進協議会
・南紀ウェルネス
ツーリズム協議会
(合宿誘致、大会主催、
利用者支援など)

・民間事業者等

(スポーツDXソリューション
推進、地域スポーツPRなど)

<セルフチェックシート>



【フォローアップ欄】令和7年度以降における計画の進捗状況

問合せ先・電話番号

上富田町役場 振興課 企画・商工観光班
TEL 0739 - 34 - 2370

“南国土佐の情熱が舞う”よさこい発祥の地・高知によるダンスを活用した地域の活性化

<目標>

計画期間：～令和10年3月31日

<継続的な取組を確保できる体制（図）>

ダンスを通じて、子供や若者、障害者が生き生きと輝ける地域づくり

- ①運動が好きな子供の増加 ②中山間地域における若者のスポーツ参加の拡大 ③インクルーシブなスポーツ活動の推進
- ④若年人口（34歳以下）の減少数(前年比)をゼロとする中山間地域の市町村の数の増加

<PRポイント>

- ①身近な場所で**やりたいスポーツができる**場づくり（ダンスは場所が限定されず始めやすい!!）
- ②**インクルーシブ**なスポーツ活動の拡大（ダンスは個人の能力に応じたパフォーマンスで楽しむことができる!!）
- ③**デジタル技術**の活用（リモートによるダンスレッスンで指導者不足を解消!!）



<現状・課題>

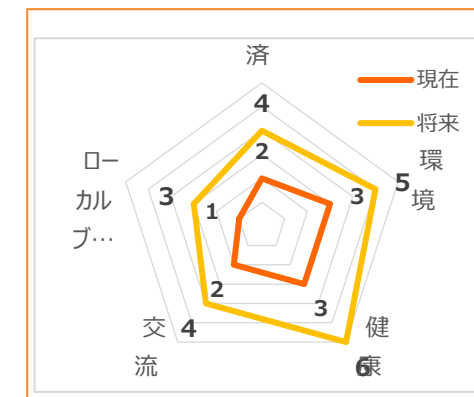
- ・指導者の不足や少子化などの影響により、身近な地域で活動できるスポーツが限定されている
- ・中山間地域では日常的に活動拠点に集まって活動することに移動面での負担が大きい
- ・健常者と障害者が一緒にスポーツ活動に取り組むことが出来る機会が少ない
- ・子供たちが行いたいスポーツ（希望する種目）としてダンスが占める割合が高い
- ・令和5年2月、本県とPERF（株）でダンスを通じたスポーツ振興等を目的に連携協定を締結



<総合的な取組内容>



<セルフチェックシート>



【フォローアップ欄】 令和7年度以降における計画の進捗状況

問合せ先・電話番号

高知県観光振興スポーツ部スポーツ課
088-821-4929

黒潮町スポーツを核にしたまちの賑わい創出事業

＜目標＞ 計画期間：平成30年4月1日～令和7年3月31日 ※次期は令和7年4月1日～令和10年3月31日

【ビジョン】 スポーツを軸に、**防災と観光で本物の自然体験**を提供する。黒潮町ならではの**地域一体**となった観光を目指す。

【コンセプト】 スポーツを通じて、「笑顔の輪を広げ」、また**"ここ（黒潮町）"に帰って来たい**ような 黒潮町のスポーツツーリズム

＜PRポイント＞

- ①豊かな自然環境 × コンパクトで多様な運動施設 × おいしい食事 × 地域一体の受入
- ②NPO砂浜美術館を窓口とした一括サポート（弁当・宿泊、トレーニングコーディネート、会場の手配等）
- ③スポーツツーリズム × 防災ツーリズム × 観光アクティビティ で経済波及効果の増



・10年前から**スポーツツーリズムを町の成長産業**と位置づけ、町内における消費活動の拡大につながる取組を展開。スポーツ宿泊数は右肩上がりで成長しており、R5年度には**宿泊数・経済効果（12,272人泊・1.8億円超）**ともに過去最高実績を達成。

＜課題＞

宿泊施設が少ない

宿泊施設の整備・高付加価値化で経済効果増！宿泊施設1増（R7）

全天候型練習場がない

雨天練習場整備（R7）

一般観光の誘客

観光体験をブラン化（合宿に組み込む）

移動手段の確保

民間バス会社との連携
実証実験→助成金の設立

スポーツ

地域交流
心と体を鍛える
チームワーク

観光

自然の恵み
遊ぶ・楽しむ
記憶に残る合宿地

防災

自然の恵みと災いの
二面性を理解
自ら考え行動する

連携事業者

黒潮町	NPO
観光ネットワーク	スポーツ施設
バス会社	体験事業者
集活センター	飲食店
宿泊・弁当	観光施設
地元スポーツ団体	スポーツ関係者

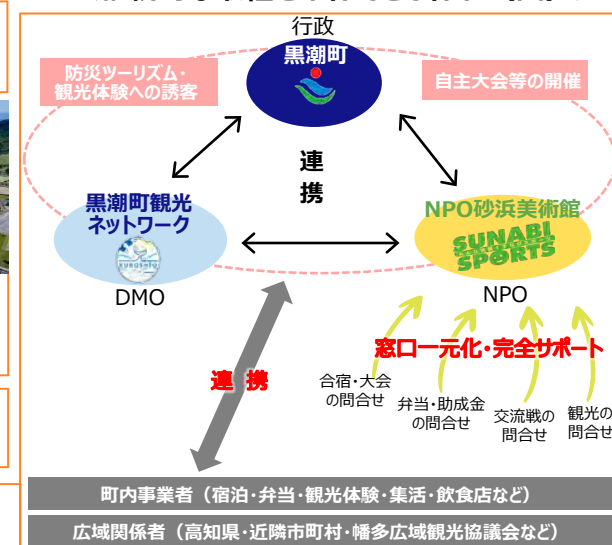
課題解決

滞在価値向上・満足度UP！

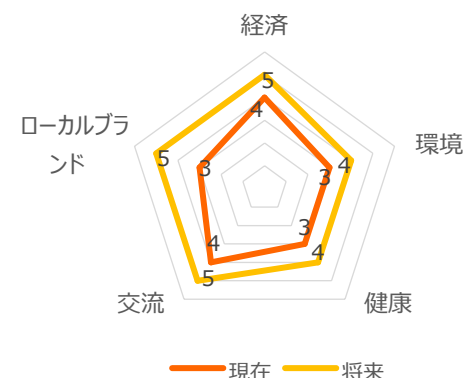
賑わい創出

- ①地域の経済循環・経済波及効果の増加
- ②関係人口の増加
- ③地域の生きがい・やりがい
- ④雇用創出

＜継続的な取組を確保できる体制（図）＞



＜セルフチェックシート＞



問合せ先・電話番号



観光公式HP



sunabiスポーツ



防災ツーリズム

高知県黒潮町
産業推進室 観光係
0880-43-2113

【フォローアップ欄】 令和7年度以降における計画の進捗状況

若鷹のまちスポーツ・健康まちづくりプロジェクト

スポまち！表彰2024
⑯福岡県筑後市

目標

計画期間：～令和10年3月31日

- ①観光入込客数の増加（現状：83.6万人→目標：令和10年3月までに108万人）
- ②運動、スポーツを行う市民の割合の増加（現状：36.1%→目標：令和10年3月までに50%）

PRポイント

- ①プロ野球球団である「福岡ソフトバンクホークス」と密に連携したスポーツのまちづくり
ファーム球場・若鷹選手を活用した施策の推進による、スポーツへの意識の醸成。
- ②球団が持つブランド力・発信力を十分に生かしたシティプロモーション
常勝軍団が有する絶対的な知名度により、「筑後」の名が数多くのメディアに露出。
- ③若鷹選手と市内児童のふれあいを通じての青少年健全育成
選手たちが市内小学校を訪問し、自作の人生グラフ説明や実技披露を通じて交流。

現状・課題

平成28年1月に福岡ソフトバンクホークスと締結した「地域包括連携協定」に基づき、多種多様な取り組みを展開する中で、青少年健全育成・地域活性化などに影響を及ぼしている。球団の絶対的な知名度を生かしたシティプロモーションなどを展開し、**観光入込客数の更なる増加**や**定住人口減少への歯止め**などに活かす必要がある。

総合的な取組内容

市と球団が双方の魅力を高め、その強みを活かしつつ多方面に渡り連携



包括連携協定の5つの柱

目指す姿

「若鷹のまち」として知名度が向上し、観光入込客にあふれ、市民満足度も高い、魅力的な市

継続的な取組を確保できる体制（図）

福岡ソフトバンクホークス(株)

（窓口：筑後事業推進部）

選手稼働、事業実施など総合的に対応



協定締結、協力・連携・調整、定例的な協議

福岡県筑後市

（窓口：建設経済部商工観光課）

各種団体、庁内各部署と連携



報告・提案
意見・協議

筑後市ファーム本拠地運営支援協議会

筑後市・議会・教育委員会・商工会議所・行政区・JA・JC・観光協会・軟式野球連盟・少年野球育成会・PTA・JR・スポーツ団体で構成

セルフチェックシート



問合せ先・電話番号

筑後市建設経済部商工観光課
TEL0942-65-7024

【フォローアップ欄】令和7年度以降における計画の進捗状況

SPORT IN LIFE 幸せスポーツ都城 ～スポーツで築く地域活力～

スポまち！表彰2024

⑪宮崎県都城市

＜目標＞ 計画期間：～令和10年3月31日

ハブ機能を有する「都城市スポーツコミッション（MSC）」を核としたスポーツ推進！

スポーツによる地域振興

自然、食、おもてなしを活かしたスポーツ合宿・キャンプ誘致・受入、スポーツツーリズムの造成

スポーツを日常の感覚に

生涯スポーツの振興

市民のライフステージに応じたスポーツ機会の提供や市民総スポーツによるまちづくりを推進

✓ 目標値（R9年度） スポーツ合宿の受入件数 250件、スポーツ実施率61.9パーセント、地域スポーツ教室の参加者3,000人

＞＞＞ 地域経済の活性化

＞＞＞ スポーツ実施率向上
健康寿命の延伸

＜PRポイント＞

1 MSCを核とした強固な連携・推進！

MSCをスポーツ推進の中心組織としてスポーツ団体や経済団体等との連携を強化。多様なスポーツ施策を推進していく！

2 スポーツの機運上昇中！

R9年度国スポ・障スポ大会を見据えた施設整備や機運醸成イベントによりスポーツ推進の機運が高まっている！

3 食や自然が豊かな土地！

「肉と焼酎」にはじまる豊かな食や本市の温暖な気候がスポーツ誘致等のアウター戦略を後押し！

＜現状・課題＞

- 現在、高まっているスポーツ推進の機運を一過性のものとしなため、スポーツ施設や国スポ・障スポ大会終了後のレガシーを活かす方策を検討する必要がある。
- スポーツ実施率が全国平均を下回っているため、市民がより運動や地域スポーツへ参画するスポーツ機会の創出が求められている。

＜総合的な取組内容＞

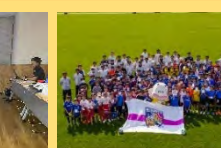
アウター戦略

スポーツで築く
地域活力あるまち都城

インナー戦略

- 本市の自然、食、おもてなしを活かした
スポーツ合宿・キャンプ誘致及び受入促進

- 本市の資源を生かした**スポーツツーリズムの造成**



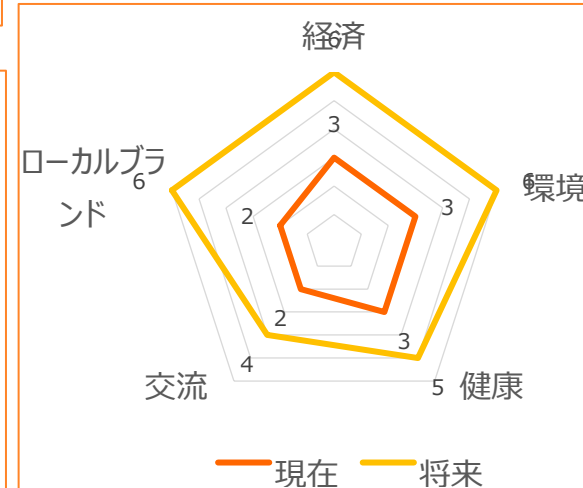
関係団体との
連携体制を強化

- 企業や市内スポーツクラブと連携した働き世代の
スポーツ実施率の向上
- AIを活用した**Digsports**の継続実施
- スポーツ団体と連携した**地域スポーツ教室の実施**

＜継続的な取組を確保できる体制（図）＞



＜セルフチェックシート＞



【フォローアップ欄】令和7年度以降における計画の進捗状況

問合せ先・電話番号

都城市観光スポーツPR部スポーツ政策課
TEL 0986-23-9546

『結のまち大崎町』が生むスポーツを通じたサポートしあうまちづくり ～交流と共創のお結びサイクル～

スポまち！表彰2024
⑱ 鹿児島県大崎町

＜目標＞ 計画期間：～令和 9 年 3 月 31日

スポーツを通じて地域住民同士やアスリートが結びつき「交流」、「共創」する仕組みを作り地域活性化を目指す。

- ① オンラインとリアルでの交流を強化し、プレイヤーやサポーターなど様々な参加形式で町民が主体的に関わる環境を構築
 - ② 豊富な食資源を活用した企業連携による地域ブランドの確立
 - ③ 若年層が主体的に活動し地域資源の新たな価値を創出することでウェルビーイングを高め、支えあう持続的なサイクル基盤を構築
- 【KPI：○サポーター制度参加者 R6.3 0人→R9.3 200人 ○スポーツイベント参加者（運営体験など）R6.3 0人→R9.3 300人 他】

＜PRポイント＞

- ① 「一般社団法人スポーツ観光おおさき」のハブ的存在が実施主体として機能（R6.7に法人化し、持続した組織運営が安定した計画遂行を実施していく）
- ② 豊かな自然と豊富な一次産業（豊富な食資源を活用した新たな商品開発や付加価値を付けブランド確立し、経済循環の活性化を推進）
- ③ アスリートや合宿者の受け入れをサポートするサポーター制度の創設（おもてなし専門部会を昇華したポーター制度を構築し、善意の見えるかを促進）

＜現状・課題＞

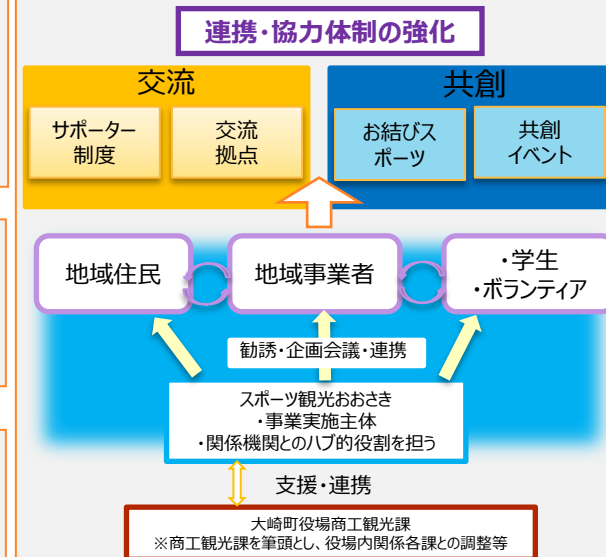
- ① 交流人口の増と地域資源を活用したコミュニティ形成やブランド構築など人と経済が循環する仕組みの構築が急がれる
- ② イベント運営や企画において若者の参加率が少ない
- ③ ボランティアや協賛企業が固定化されており、善意の見えるかがされておらず、持続的なスポーツによるまちづくりを推進する体制が確立されていない。

＜総合的な取組内容＞



『結のまち大崎町』が生むスポーツを通じたサポートしあうまちづくり ～交流と共創のお結びサイクル～

＜継続的な取組を確保できる体制（図）＞



＜セルフチェックシート＞



問合せ先・電話番号

大崎町役場 商工観光課
TEL：099-476-1111（内線231）

【フォローアップ欄】 令和7年度以降における計画の進捗状況

『アルバイト×合宿×スポーツDX＝無限大∞』

スポまち！表彰2024

～ スポーツ合宿を通じた産業を支える働き手の確保・地域交流を通じた関係人口の拡大【石垣島を第二の故郷に】～ ①9 沖縄県石垣市

＜目標＞ 計画期間：～令和 7 年 3 月 31 日

- 本市の若いアルバイトの働き手不足という地域課題を解決するために合宿で来島した学生にアルバイトと合宿の両立が可能な点をPRし合宿誘致を行い、アルバイトの働き手不足解消と来島する競技者にとっては活動資金確保等の活動支援を目標とする。
- 合宿の様子をスポーツDXを活用し映像化することで、映像を活用した練習や保護者の見守り等スポーツ環境の充実を通じスポーツ合宿地としてのブランディングを強化する。

＜PRポイント＞

- 石垣島スポーツコミッションを中心とした幅広い官民連携組織
⇒ 自治体と8団体が構成しており官民が多方面で協力できる。

- 充実したスポーツ資源、観光資源

⇒ 市民の方々からプロチームまで利用可能なスポーツ施設。スポーツDXを活用した環境整備。

サッカーパークあかんま



AIカメラを活用したスポーツDX



＜現状・課題＞

- 本市では高等教育機関が無いことから、20歳前後のアルバイトとしての働き手が極端に少なく、**各産業においてアルバイトの働き手の確保に大変苦慮**している。
- また、多くの高校、大学をはじめスポーツチームが合宿やキャンプを受け入れているが、近年、**渡航費用や宿泊費の高騰**で合宿地として検討しているチーム・団体の懸念材料となっており、**支援策の検討**が課題。

＜総合的な取組内容＞

- 合宿・キャンプで来島する**高校・大学のスポーツチーム・サークル等をターゲットに『アルバイト×合宿』の新たな合宿誘致を行う**。具体的には**午前はアルバイト、午後は練習**というようなアルバイトと合宿を両立できる合宿メニューを新たに提供する。両立可能な合宿メニューとなるよう、石垣島スポーツコミッションが中心となり官民連携し、受入態勢を構築する。
- また映像を活用した指導や保護者の見守りが可能な**充実したスポーツ環境をスポーツDXの活用により提供することで魅力ある合宿メニューを下支え**する。

- これによりアルバイトの働き手不足という地域課題解決に繋がる。
- 更に競技者は合宿費の軽減や今後の活動費確保にも繋げる。

- 将来的には本取組を通して、石垣島での仕事や生活を体験により、**第二の故郷と感じてもらい、移住や定住を図り若い世代による人口増加、地域活性化を目指す**。

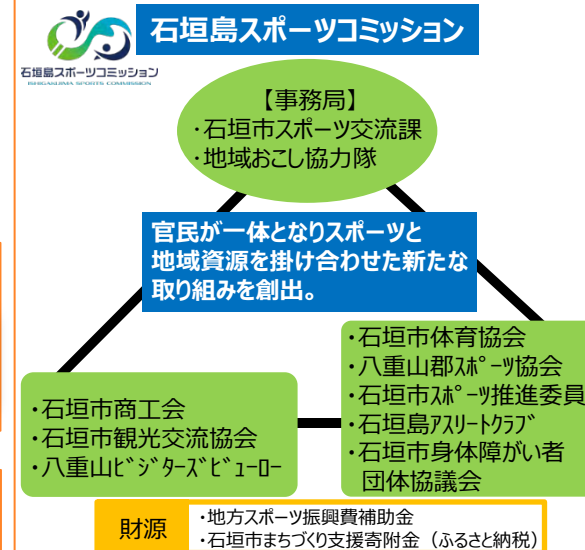
アルバイト受入れ先例：農家



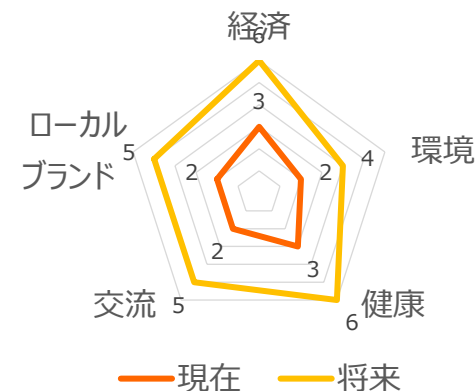
スポーツDXで環境充実
試合や練習を映像化



＜継続的な取組を確保できる体制（図）＞



＜セルフチェックシート＞



問合せ先・電話番号

石垣市企画部スポーツ交流課
TEL:0980-88-6666

【フォローアップ欄】 令和7年度以降における計画の進捗状況

スポーツ×よみたん ふるさとづくりプロジェクト



スポまち！表彰2024
②0 沖縄県読谷村

＜目標＞ 計画期間：～令和9年3月31日

これまで取り組んできたスポーツキャンプ・大会受入等スポーツコンベンション事業をレガシーとして活用することにより、**交流・関係人口の創出・拡大**を目指す。**来訪者、地元住民誰もがふるさと思えるむらづくり**
スポーツコンベンション受入件数：16件→17件 スポーツツーリズムコンテンツ創出数：0件→2件 地域交流事業数：3件→5件

＜PRポイント＞

- 豊富なスポーツキャンプ受入実績
野球、サッカー、ラグビー、ソフトボールなどアマから代表チームまで受け入れた実績を活かした、**読谷流ウトウイムチ（おもてなし）**
 - 多種多様な資源
スポーツ施設のみならず宿泊施設も豊富。
自然海岸や世界遺産など多種多様な観光ツールを有し、スポーツコンベンションに最適な環境。
- 幅広いニーズへ対応したスポーツ実施場所の提供



＜現状・課題＞

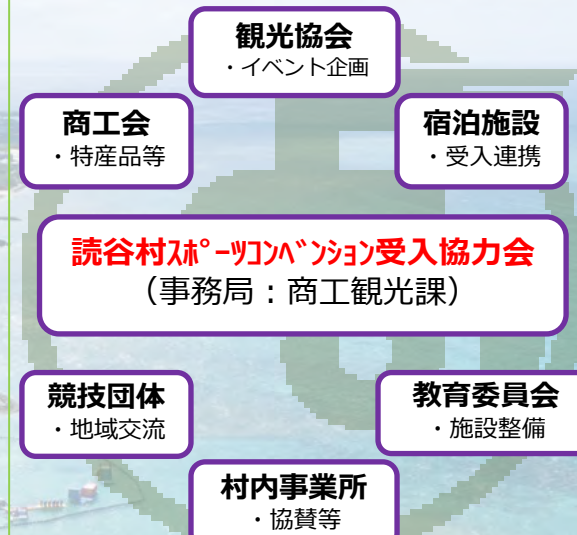
スポーツコンベンション事業の拡大・発展が必要な段階であり、本事業を通じた、交流・関係人口の創出・拡大が重要。社会的な課題として、年少人口・生産年齢人口の減少や、地域コミュニティの希薄化が懸念視。

＜総合的な取組内容＞

- ①「キャンプチーム×地域コミュニティ」のつながり創出
 - ・**選手の第二の“ふるさと”**となるよう、学校や自治会等との交流を促進
 - ・地元住民にチームのファンになってもらうことによる生きがいの創出
 - ・競技の体験会等を活用した地域コミュニティの活性化促進
- ②読谷村ファン獲得に向けたスポーツツーリズムの推進
 - ・スポーツツーリズムになり得るアクティビティを掘り起こし、県外から幅広い層のプレイヤー・観光客を誘客する。⇒**選ばれるまち、誇りを持てるまちへ「読谷愛の醸成」**



＜継続的な取組を確保できる体制（図）＞



＜セルフチェックシート＞



問合せ先・電話番号

読谷村ゆたさむら推進部商工観光課
TEL：098-982-9216

【フォローアップ欄】令和7年度以降における計画の進捗状況